

地理歴史科（歴史総合）学習指導案

1 単元名 19世紀後半のヨーロッパ

この単元は、「2内容」の「B近代化と私たち」の「(3)国民国家と明治維新」に該当する。

2 単元目標

- (1) イギリスとフランスの対外政策を国内状況と合わせて理解する。
- (2) イタリアやドイツの統一国家の形成について理解する。
- (3) ドイツの国民国家形成の学習を通じて、身近な共生社会に必要な視点を見いだそうとする。
- (4) 19世紀の文化・科学と社会の変容を、具体的な例を挙げながら表現する。
- (5) 19世紀の文化・科学と今日の社会との関連性を見いだそうとする。

3 単元計画（全体8時間）

(1) 指導計画

- ・クリミア戦争、イギリスの繁栄 1時間
- ・フランス第二帝政、第三共和政、イタリアの統一 2時間
- ・ドイツの統一とビスマルクの政治 3時間（本時4/8～6/8）
- ・ロシアの近代化と国際的諸運動の進展 1時間
- ・19世紀の文化、科学と社会の変容 1時間

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・イギリスとフランスの対外政策を国内の状況から理解している。 ・イタリアやドイツの統一国家の形成について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・19世紀の文化・科学と社会の変容を、具体的な例を挙げながら表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツの国民国家形成の学習を通じて共生社会を実現するために必要な視点を見いだそうとしている。 ・19世紀の文化・科学と現代社会との関連を見いだそうとしている。

(3) 指導内容及び評価計画

(○…「評価に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B)具体的な評価規準 (C)具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (1)	【学習課題】<単元を貫く問い> 「国民国家の形成過程について、各国の違いはあるのか」 【学習課題】「イギリスの繁栄の源泉は何か」 ・クリミア戦争、イギリスの繁栄	【ねらい】英露の対立を考察する中で、単元を貫く問いを確認し、単元の見通しをもつ。	●	●		(B)英露の対立に注目し、イギリスの繁栄の源泉について考察している。 (C)個別に助言する。	ワークシート
第2次 (2)	【学習課題】「国民国家の形成の原動力は何か」 ・フランス第二帝政、第三共和政、イタリアの統一	【ねらい】国民国家の形成過程を理解し、自由主義や国民主義との関係について考察する。	●	●		(B)7月革命・二月革命と関連付けて考察できている。 (C)個別に助言する。	ワークシート
第3次 (3)	【学習課題】 「国民国家の形成過程において、英仏との違いは何か」 「身近な共生社会に必要なことは何か」 ・ドイツの統一とビスマルクの政治	【ねらい】イタリア同様政府主導による国民国家形成であったことを理解する。また、英仏における形成過程の違いから、共生社会に必要なことを考える。	●	●	○	【主】 4(3)参照	ワークシート

第4次 (1)	<p>【学習課題】 「ロシアの近代化を遅らせたものは何か」</p> <p>・ロシアの近代化と国際的諸運動の進展</p>	<p>【ねらい】強大な皇帝権力と旧態依然の社会構造、それらを否定するテロリズムなどが近代化を遅らせたことを理解する。</p>	●		<p>(B)ロシアの近代化を遅らせた原因について理解している。</p> <p>(C)個別に助言する。</p>	ワークシート
第5次 (1)	<p>【学習課題】 「文化・科学が社会に与えた影響は何か」</p> <p>・19世紀の文化、科学と社会の変容</p>	<p>【ねらい】文化・科学が社会に与えた影響を考察しまとめる。</p>	●	●	<p>(B)文化・科学が19世紀の社会に与えた影響について考察している。</p> <p>(C)個別に助言する。</p>	ワークシート

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

ドイツにおける国民国家形成の過程が政府が主導した統一であったことに注目し、イギリスやフランスにおける形成過程との違いについて考察する。

(2) 本時の展開 (3時間分)

(○…「評価に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	・前時までの学習内容の確認	・英仏の国民国家形成の過程について、ポイントを絞って確認する。 ・フランクフルト国民議会での結果について確認する。	
展開1	・分裂したドイツをまとめる方法 ・ビスマルクについて ・グループ活動①	・フランクフルト国民議会を経たドイツをまとめる方法を予想する。 ・ビスマルクの人物像や政策について、タブレット端末を使いグループごとにテーマを決めて調べる。 ・調べた内容を持ち寄り、ビスマルクによるドイツ統一の特徴をグループで話し合う。	
展開2	・ビスマルクの政策 ・グループ活動②	・グループでまとめビスマルクの政策について理解を深める。 ・ドイツにおける統一と国民国家形成の過程について、英仏のそれとの違いなどを検討し考察する。	○ワークシート 【主体的に学習に取り組む態度】
まとめ	・振り返り	・本時の学習内容を確認するとともに、身近な共生社会(学校生活)で必要なことを考える。	

(3) 本時の評価規準

ワークシートの評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

ドイツの国民国家形成の学習を通じて身近な共生社会に必要な視点を見いだしている。

判断基準

「おおむね満足できる」状況 (B) と判断される例
・身近な共生社会に必要な視点を見いだしている。
「十分満足できる」状況 (A) と判断される例
・身近な共生社会に必要な視点を学校生活での具体例と結び付けて説明できている。

「努力を要する」状況（C）と判断される例とその生徒への支援

・身近な共生社会に必要な視点を見出すことができない。→国民国家は違う文化をルーツにもつ人びとが集まっていることを確認させ、生徒が通う学校（学校生活）との類似点を考えさせる。
--

5 生徒の状況、成果及び課題

(1) 生徒、クラスについて

今回授業を行ったのは全員が外国にルーツをもつ生徒で構成された昼間定時制1年生のクラスである（生徒の国籍はフィリピン、ベトナム、パルー、ブラジル。授業のプリントで使用する外国語は英語、ポルトガル語、スペイン語）。ほとんどの生徒は、会話程度の平易な日本語は比較的理解できるが、教科書の内容や抽象的な言葉の理解は難しく、授業中、集中力が続かず、すぐに他の生徒と母語で会話を始めてしまう傾向にある。一方、ICT機器の活用能力には長けており、機器を活用した授業には前向きに取り組む。また、ICT機器の翻訳機能を活用するなどして言葉の壁を乗り越えようとする一面をもっている。

(2) 成果

生徒の学習状況を見取るため、生徒が調べたことなどを記録する授業プリントに日本語と母語の記入欄を設け、彼らが考えたことを母語で併記できるように工夫した。

また、タブレット端末を使った授業ということで、生徒は意欲的に授業に取り組み、母語が異なる生徒同士がオンラインの翻訳機能を活用してテーマについて協働的に調べ、学びを深める場面を見取ることができた。授業のまとめの「クラスを一つにまとめるために何が必要か？」という問いに対しては、授業で学んだイギリスやフランス、イタリアの国民統合の在り方を参考にし、異なる背景を認めつつ共通点を見つけること（特に言語）の大切さに気付いた生徒が多数いた。

(3) 課題

グループ活動では、学級の半分以上の生徒がポルトガル語を母語としているため、同じ言語を母語とするグループができ、その結果、同じサイトを情報源とすることで調べる内容や論点が偏ってしまった。今後の授業実践をする中で、複数のサイトの情報を比較するように伝えるなどオリエンテーションを充実していきたい。

今年度の研究では、昨年度の研究成果（生徒の母語を併記したプリントの活用により生徒の主体的に学習に取り組む態度を引き出すという取組）に加え、学校という生徒にとって身近な共生社会に必要なことを考える授業実践を行った。卒業後、生徒たちが日本社会に参画するために必要となる見方や考え方を歴史の授業を通じて身に付けられるように、今後も授業改善に努めていきたい。